

令和 5・6 年度複合構造委員会 第 4 回幹事会 議事録

日 時：2023(令和 5)年 11 月 2 日(木) 14:00～17:00

場 所：土木学会 A 会議室 Web 併用 (Zoom)

出席者：牧委員長，大山副委員長，皆田幹事長，大久保幹事，川端幹事，北根幹事 (欠)，齋藤(隆)幹事，櫻庭幹事，塩畑幹事，平幹事，内藤幹事 (欠)，中村幹事，仁平幹事，橋本幹事，藤林幹事，山本幹事，岡崎事務局 (欠)

配布資料：

- 幹4-0 令和5・6年度複合構造委員会第4回幹事会議事次第
- 幹4-1 令和5・6年度複合構造委員会第3回幹事会議事録 (案)
- 幹4-2 令和5・6年度複合構造委員会幹事会業務分担
- 幹4-3 委員会審議結果報告 (第1種委員会 (H101) の委員役職について)
- 幹4-4 令和5年度委員会予算執行状況
- 幹4-5 2024年度事業計画と予算案について
- 幹4-6 令和6年度土木学会全国大会 共通セッション、
特別セッションの募集と部門別セッション名の確認について
- 幹4-7 令和5年度全国大会・年次学術講演会 (共通セッション) の報告
- 幹4-8 第15回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム
- 幹4-9 土木学会論文集特集号 (複合構造)
- 幹4-10 複合構造の継続教育
- 幹4-11 出版関連報告
- 幹4-12 ホームページ関連報告
- 幹4-13 H101 複合構造標準示方書小委員会
- 幹4-14 H109 複合構造技術の発展に関する調査小委員会
- 幹4-15 H110 Society5.0に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究
- 幹4-16 H218 FRP複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会
- 幹4-17 H220 グリーングレーハイブリッドインフラの評価に関する研究小委員会
- 幹4-18 H221 樹脂・FRP材料による複合技術研究小委員会
- ~~幹4-19 H222 複合構造におけるプレハブ・プレキャスト工法の活用に向けた研究小委員会~~
- 幹4-20-1 新規小委員会の設置について
- 幹4-20-2 新規小委員会の募集方法について
- 幹4-21 令和5・6年度 第2回委員会議事次第(案)
- 幹4-22 第13回 独日橋梁シンポジウムの共催について
- 幹4-23 土木学会国際貢献賞及び国際活動奨励賞候補者の推薦について
- 幹4-24 令和5年度田中賞推薦について
- 幹4-25-1 インボイス制度に伴う旅費精算方法の変更について。
- 幹4-25-2 【新様式】立替払精算請求書
- 幹4-26 示方書連絡会議，共通示方書改訂小委員会について

- 幹4-27 日本ウエザリングテストセンターからの問合せ（300年暴露）について
幹4-28 土木学会 令和5年度 功績賞候補推薦について
幹4-29 カーボンニュートラルに資する土木構造・材料のあり方に関するパネルディスカッション共同企画のお願い

議事内容：

1. 委員長挨拶

- ・ 牧委員長より、開会の挨拶がなされた。

2. 複合構造委員会第3回幹事会議事録(案)確認（幹4-1）

- ・ 藤林幹事より説明があった。
- ・ 令和5・6年度 複合構造委員会 第2回 幹事会の議事録について説明がなされ、1か所の軽微な修正（開告→会告）のうえ承認された。

3. 令和5・6年度複合構造委員会幹事会業務分担（幹4-2）

- ・ 皆田幹事長より説明があった。
- ・ 外部委員会の土木学会論文集編集委員会の参加委員変更を反映させる（平委員が退任、大山副委員長が新任）。
- ・ 示方書連絡会議に斉藤成彦委員が新たに参加することとなった。松本高志委員は今年度継続となっている ※(17(5)参照)。
- ・ 示方書小委員会の委員長と幹事長の交代を反映させる。

4. 委員会審議結果報告（第1種小委員会(H101)の委員役職について）（幹4-3）

- ・ 皆田幹事長より説明があった。
- ・ 親委員会での審議の結果、示方書小委員会の委員長と幹事長の交代が承認されたことが報告された。

5. 令和5年度委員会予算執行状況（幹4-4）

- ・ 皆田幹事長より説明があった。
- ・ 全国大会における備品（プリント等）発送に掛かる費用、H218 報告書の海外文献の転載許可に掛かる費用等を計上した。

6. 2024年度事業計画と予算案について（幹4-5）

- ・ 皆田幹事長より説明があった。
- ・ 事業計画として例年通りのイベント（FRPシンポ等）を想定している。
- ・ 論文集編集委員会より、特集号に関するシステム代金や論文編集料などについて後日連絡がある。

**7. 令和6年度土木学会全国大会 共通セッション、
特別セッションの募集と部門別セッション名の確認について（幹4-6）**

- ・ 皆田幹事長より説明があった。
- ・ 特別セッションを設定しないなど、今年度からの内容に変更はない。

- ・合成構造については、複合構造委員会の共通セッションに投稿を促す記載を過去にしていたが、今回もそのような記載が可能かどうか、土木学会に対して皆田幹事長より確認する。

※幹事会終了後、皆田幹事長より土木学会事務局に来年度も記載されることを確認した。

8. 令和5年度全国大会・年次学術講演会（共通セッション）の報告（幹4-7）

- ・川端幹事より説明があった。
- ・9/14と9/15に52件の発表と257名の参加者があった、夕方のセッションの参加者が少ない傾向にあったが、1セッションあたり30名程度の参加者であった。大きなトラブルはなかった。
- ・来年は東北大学で行われる。

9. 第15回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム（幹4-8）

- ・仁平幹事より説明があった。
- ・実行WGや推薦WGで分担のうえ準備はほぼ終了した。シンポジウムの参加者は89名となる予定。
- ・シンポジウムの収支は赤字にはならない予定。
- ・参加者はシンポジウム小委員会で把握している、参加する親委員は毎年同じメンバーであることが多い。
- ・今後、親委員会への周知方法等を改善し、参加者を増やす取り組みを行う必要がある。12月の親委員会で状況説明を行う予定。
- ・CD発送の関係から、事前申し込みしかできない状況となっているが、変更できるかどうか、仁平幹事より土木学会に問い合わせる。

※幹事会終了後、仁平幹事が岡崎事務局に問い合わせた。土木学会としては現状の事前申し込みの方法で対応し、イベント開催時に現金の収受は行わない方針は変わらないとのことであった。過去にイベントの未収金が多数発生したことを受け、事前申し込みのシステムを導入した経緯を踏まえた対応であることを理解いただきたいとのこと。

これらを踏まえ、親委員の参加を促す方法として、以下が考えられる。

例えば

- ・現状のCD作成はやめてWEB公開として参加費を下げる。
- ・委員会内でのCD配布を廃止し、CDを入手したい方は参加いただく 等

10. 土木学会論文集特集号（幹4-9）

- ・櫻庭幹事より説明があった。
- ・ホームページを更新した。
- ・本開催の第15回複合シンポに関する特集号の編集は、シンポジウム小委員会の推薦WGとの連携を図りながら進めている。
- ・次々巻以降の編集では、シンポジウムの開催時期や人事異動の時期を踏まえ、可否判定は3月末まで、発刊時期は5月末から6月末のスケジュールとする。
- ・連動するシンポジウム（複合シンポ、FRPシンポ）が12月開催となると対応が出来ないため、建築主催の場合含めて、他のシンポジウムのスケジュールと調整のうえ11月初旬～中旬に実施するように、

シンポジウム小委員会で対応するようにする。

- ・田中賞の推薦は、編集小委員会の提案とおりに進めることで承認された。

11. 複合構造の継続教育（幹 4-10）

- ・中村幹事と塩畑幹事より説明があった。
- ・11月2日に実施したリハーサルは無事終了した。
- ・12月1日に開催し、大垣先生の「合成桁橋の現状と将来展望」、島先生の「鋼・コンクリート複合構造の弱点—ずれ止めのすべりとコンクリートの乾燥収縮—」の講演を行う。
- ・後援する学協会に対しては連絡済みであり、土木学会の他の委員会（鋼構造委員会、構造工学委員会、コンクリート委員会）への要請等は、近日公開となる、土木学会のホームページに行事エントリーが公開されて以降を想定している。
- ・皆田幹事長より親委員会へ周知を行う。リマインダも想定する。

12. 出版関連報告（幹 4-11）

- ・櫻庭幹事より説明があった。
- ・複合示方書の出版企画は、出版委員会のヒアリングが免除されるなど順調に進んでいる。

13. ホームページ関連報告（幹 4-12）

- ・山本幹事より説明があった。
- ・ホームページを更新したが、設立目的や活動時期等、小委員会情報において暫定的に記載している箇所がある、小委員会の担当者は内藤幹事に連絡の上、適宜充実を図るようにする。
- ・絶版されている報告書については、リンクを切るようにする。
- ・これまで実施してきた研究討論会や複合構造セミナーは資料の有無に関わらず掲載することとする。（例えば、第1回の複合構造セミナー（依田先生発表分）等）

14. 小委員会報告審議事項

(1) H101 複合構造標準示方書小委員会（幹 4-13）

- ・仁平幹事より説明があった。
- ・2023年度後半に原案を完成させて、来年度11月に発刊を目途で進めている。今後、さらに活動が本格化する予定。

(2) H109 複合構造技術の発展に関する調査小委員会（幹 4-14）

- ・仁平幹事より説明があった。
- ・2～3か月毎に実施し、第4回委員会は12/12に実施予定。

(3) H110 Society5.0に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究（幹 4-15）

- ・塩畑幹事より説明があった。
- ・今後活動を加速させていく。

- ・委員会活動の一環として、Society5.0に関連するイベントへの参加やNexco 東日本の建設現場の見学を11月～12月に予定している。

(4) H218 FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会（幹 4-16）

- ・橋本幹事より説明があった。
- ・10/4に講習会を実施した。参加者は40名程度であった。
- ・報告書（複合構造レポート20）を発刊した。
- ・委員会活動報告は今回で終了する。

(5) H220 グリーングレーハイブリッドインフラの評価に関する研究小委員会（幹 4-17）

- ・川端幹事より説明があった。
- ・適宜WGを開催する等しながら、活動している。
- ・第8回の全体委員会を11/13に実施予定。

(6) H221 樹脂・FRP材料による複合技術研究小委員会（幹 4-18）

- ・橋本幹事より説明があった。
- ・第4回委員会を11/22に実施予定、12月に現場見学会（CFRPによる橋脚耐震補強工事）も予定する。

(7) H222 複合構造におけるプレハブ・プレキャスト工法の活用に向けた研究小委員会

- ・大久保幹事より説明があった。
- ・第2回委員会を12月開催で現在調整中。

15. 新規小委員会の設置について（幹 4-20）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・2024年度における新規小委員会の立ち上げは現時点で想定されていない、審議含め立ち上げには時間がかかることから、12月開催の親委員会にこれらの話題を整理のうえ議題とする。
- ・資料では北根幹事が新規小委員会の候補となっており、皆田幹事長にて確認する。

16. 令和5・6年度 第2回委員会議事次第(案)（幹 4-21）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・親委員会は12/11開催。
- ・ホームページ関連報告は議題とせず、WGを設置して都度チェックしていることを報告する。

17. その他

(1) 第13回 独日橋梁シンポジウムについて（幹 4-22）

- ・大山副委員長と皆田幹事長より説明があった。
- ・8/29～9/1に鋼構造委員会と複合構造委員会の共催にて実施され、活動度評価の人数は幹事学会数をNとして $2/(N+1)$ を乗じることとなり、参加者143名の $2/3$ である95.3名が評価人数となった。

(2) 土木学会国際貢献賞及び国際活動奨励賞候補者の推薦について（幹 4-23）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・該当する候補者がいれば委員各自で推薦いただきたいとの案内を複合構造委員会に送付したことが報告された。

(3) 令和 5 年度田中賞推薦について（幹 4-24）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・推薦する論文・報告について了承された。

(4) インボイス制度に伴う旅費精算方法の変更について（幹 4-25）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・今後の旅費精算については土木学会の新規の共通書式となること、鉄道・船舶・バス利用で領収書を提出しない場合は利用した経路・料金がわかる資料（駅探等の経路検索結果の出力等）の提出が必須となること、飛行機を利用した場合は領収書・搭乗証明書の提出が必須となること等、変更についての説明があった。

(5) 示方書連絡会議，共通示方書改訂小委員会について（幹 4-26）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・示方書連絡会議に齊藤成彦委員が新たに参加することとなった。松本高志委員は今年度継続となっている。 ※(3. 参照)。
- ・共通示方書改訂小委員会は、年度末入稿が予想されるので松本高志委員に終了まで継続いただくこととなった。

(6) 日本ウエザリングテストセンターからの問合せ（300 年暴露）について（幹 4-27）

- ・大久保幹事より説明があった。
- ・超長期 300 年プロジェクトの概要を知った、一般財団法人日本ウエザリングテストセンターの永井様の要望により、松本高志委員と意見交換することとなった。

(7) 土木学会 令和 5 年度 功績賞候補推薦について（幹 4-28）

- ・皆田幹事長より説明があった。
- ・過去の受賞者を確認した。今後、推薦候補者の選定を進めていくこととなった。

(8) カーボンニュートラルに資する土木構造・材料のあり方に関するパネルディスカッション共同企画のお願い（幹 4-29）

- ・牧委員長、川端幹事より説明があった。
- ・カーボンニュートラル (CN) については、複合構造委員会が前向きに取り組んでもよいと考えており、構造的な観点から、鋼の代わりにコンクリートや FRP を活用するという方法等について探っていくことを想定する。

- ・手始めとして、コンクリート委員会の研究小委員会から提案された分野横断的なパネルディスカッション（CN に資する土木構造・材料のあり方に関するパネルディスカッション）を共同で企画参加する予定。
- ・複合構造委員会からの参加者の調整は川端幹事が行う。

18. 閉会挨拶

- ・大山副委員長より，閉会の挨拶がなされた。

以 上
(記録：仁平達也)